

彫刻の森美術館には、5つの室内展示場があります。

本館ギャラリー 緑陰ギャラリー



エミール=アントワーン・ブールデル《弓を引くヘラクレス》

篠山紀信写真展

2016年9月17日(土)～2017年6月25日(日)

2016年9月17日より、展覧会「篠山紀信写真展 KISHIN meets ART」を開催致します。

1950年代後半から今日まで、第一線を走り続ける写真家・篠山紀信。ヌードや都市風景、スターたちのポートレートなど、次々と発表される写真は時に物議を醸し、彼の用いた「激写」は流行語にもなりました。驚異的なスピードとエネルギーで、テーマやジャンル、手法も多彩に変化させながら、鋭い嗅覚で「いま」を撮り続けてきました。

その篠山がのぞむ本展覧会のテーマは、ずばり、「アート」。新たに撮り下ろしたヘンリー・ムーア、カール・ミレス、ジュリアーノ・ヴァンジなど、野外彫刻の迫力ある写真が見る者に迫ってきます。篠山が正面から彫刻に挑んだ、まさに新境地の写真です。また、複数台のカメラを結合して撮影する、篠山独特の手法「シノラマ」で撮影されたバルテュスや岡本太郎、草間彌生など、これまで交流を重ねたアーティストやその仕事場の写真もダイナミックなスケールで併せて公開します。これまであまり公開されることのなかった、篠山とアートの出会いを切り取った瞬間＝「KISHIN meets ART」をお楽しみいただける内容となっております。



展示構成

篠山紀信が撮り下ろす、初めてのオープン・エア ミュージアム

彫刻の森美術館に展示されている彫刻作品。ヘンリー・ムーアをはじめ、エミール=アントワーン・ブールデル、カール・ミレス、ジュリアーノ・ヴァンジなどの当館を代表する野外彫刻の数々が、四季折々の箱根の大自然と調和しながら展示されています。



ヘンリー・ムーア《ファミリー・グループ》



舟越桂

マルチホール



彫刻の森研究所 会期：2016年4月29日(金・祝)～

当研究所は、彫刻作品をより深く理解し、より楽しく鑑賞することを目的に活動しています。

彫刻の「そざい」「かたち」「くうかん」をさまざまな方法で分析し、日々研究を重ねています。みなさんも是非研究に参加し、彫刻に対する理解を楽しく深めていただければと思います。そして研究の後は、「近代彫刻コレクション」や野外彫刻をじっくり鑑賞してみてください。

彫刻との新たな出会いがあるかもしれませんよ。

マンズールーム

イタリアの彫刻家ジャコモ・マンズーの「死の扉」習作12点を常設展示しています。



近代彫刻にみる革新～コレクションより～ 会期：2015年5月23日(土)～

ウンベルト・ボッチオーニ《空間の中の一つの連続する形》、シャルル・デスピオ 《アッシア》、アメデオ・モディリアーニ 《頭部》、コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》、アルベルト・ジャコメッティ《腕のない細い女》、メタルド・ロツノ《病院の病める男》、ヘンリー・ムーア 《着衣の横たわる像》など近代彫刻のコレクションより13点を展示します。



コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》

ピカソ館

『ピカソ・コレクション』

ピカソ館は、20世紀を代表するスペインの芸術家パブロ・ピカソの作品を専門にご覧いただくために1984年に日本で初めて開館しました。ピカソが65歳から熱中して制作した陶芸作品を中心に多彩な所蔵作品300点余りを順次公開しています。



アートホール

『じぐザグ^{きんかく}ワーるド』

会場の中心に展示されている、赤い大きな作品《オクテトラ》。アメリカの彫刻家イサム・ノグチは、日常の遊び場にアートを持ち込み、子どもたちに夢を与えるために数多くのプレイスカルプチャー（遊べる彫刻）を制作しました。《オクテトラ》は、イサム・ノグチが制作したプレイスカルプチャーで最も知られたものです。ギリシア語の8=オクトと4=テトラを組み合わせると《オクテトラ》と名付けられたこの作品は、六角形の面4つと三角形の面4つをあわせて八面体の彫刻で、中に入って登ったり、くぐったりすることができます。

『じぐザグ^{きんかく}ワーるド』は、《オクテトラ》から生まれたかたちをもとに、自然のかたちも取り入れながら会場全体をひとつの図形として作り上げました。たくさんのボールには山形に赤色と黄色がペイントされ、まるで森の中にいるような気持ちになります。三角形のクッションは《オクテトラ》から飛び出したかたちのように見えます。どこで遊ぶのか、どうやって遊ぶのかは子どもたちの自由です。様々な遊びの中から、空間に隠されたおもしろいかたちに出会ってください。遊具とも建築とも、アートとも言えるこの場所は、子どもたちが遊びながらアートを発見できる〈彫刻的空間〉です。

